

史跡

備中国分尼寺跡

かんばやし
総社市上林 ほか

平安時代に焼失した金堂

備中国分尼寺は、天平13(741)年に聖武天皇の命により、全国に建立された国分僧寺・尼寺のひとつです。当センターでは、「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業として、こうもり塚古墳の調査に続き、令和5年度から備中国分尼寺跡の発掘調査を行っています。

今年度は、中門、金堂、講堂、北門と北辺の築地について調査を行いました。その結果、金堂は建物を支える基礎部分である基壇規模が東西幅約25m、南北幅約18mであることがわかりました。多くの古代寺院の基壇では、外周を石材や瓦などで覆って装飾(基壇外装)し、中央部分には階段を設置することが多いのですが、備中国分尼寺の金堂基壇では、これらの施設は設けられなかったことが明らかになりました。また、奈良時代に造られた基壇端が崩れた後、平安時代にこの部分を盛土で覆って修復がなされていることが判明しました。この修復時にも基壇に装



備中国分尼寺 金堂跡(北西から)

飾は施されませんでした。平安時代の基壇上面では被熱痕が認められ、基壇外側の南辺と西辺にある雨落溝からは多くの瓦とともに多量の炭化材と壁土が出土しました。なお、壁土は溝の上層付近から出土する傾向がありました。これらの成果と出土遺物から、金堂は平安時代（11世紀初頭頃）の火災で焼け落ち、その後に再建されることはなかったと考えられます。

北辺の調査区では、北門が従来想定していた場所には設けられていないことがわかりました。また、遊歩道に平行して東西方向に延びる土手状の高まりが築地の一部であることが判明し、南辺の築地だけでなく、北辺も良好な状態で残っていることがわかりました。北辺の築地は基底幅1mで、南辺の基底幅1.6mと比較すると小規模でした。この築地規模の差から、備中国分尼寺の造営では山陽道に面する南側を重視していたことがわかります。（藤井雅大）



金堂南端の雨落溝に堆積した炭と炭化材（西から）



東西方向に延びる北辺の築地（北東から）

なかつ 中津遺跡

たましまくるさき
倉敷市玉島黒崎

縄文時代の貝層を調査

水島港^{とうせん}唐船線改築工事に伴い、中津遺跡の発掘調査を令和6年6月から10月まで行いました。調査では、中世の^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物・^{どこう}土坑や溝、古代の^{くぼち}窪地、縄文時代の貝層などが見つかりました。

縄文時代の貝層は、緩斜面の上方に位置する土坑や窪地の上に形成されていました。そのうち、貝が密に堆積するのは東西約6m、南北約4mの範囲で、最も厚い部分の堆積は約20cmを測ります。貝層中やその周辺からは、ハイガイを主体にアカニシやオキシジミなどの貝類や獣骨、縄文時代後～晩期の土器、石^{せきぞく}鏃・石^{せきふ}斧・石^{いしさじ}匙・石^{せきすい}錘などの石器とともに、焼土塊や大量の^{れき}礫が出土しました。掘り上げた貝層の土は、洗浄して微細な資料を見つける予定です。それらの資料を分析することで、当時の自然環境や食環境、生業活動などが復元できる可能性があります。

10月16日（水）には地元地区の皆さんを対象とした現地説明会を開催しました。参加者の皆さんは、貝層調査の様子や出土品の展示に興味深く見学されていました。（高田恭一郎）



縄文時代の貝層の作業風景

さかづ 酒津遺跡

倉敷市酒津

高梁川中州に残された 集落遺跡

酒津遺跡は、高梁川下流の河川敷に広がる、縄文時代から中世にかけての集落遺跡です。高梁川河川整備事業に伴い、令和4年度から発掘調査を実施しています。今年度の調査地点は、昨年度から引き続き「笠井堰」南側の中州北端部周辺です。調査を4・5月に行ったあと一旦中断し、出水期明けとなる10月に再開して3月まで行いました。

昨年度に調査を行った古墳の墳丘下やその周辺では、表面の風化が進んだサヌカイト製の石鏃や、流紋岩製の板状有溝砥石など、縄文時代草創期の石器が出土しています。また、これらとともにサヌカイトの剥片・碎片が多数出土したことから、石器製作の場などと推定されます。

その南側では令和4・5年度の調査区から続く奈良時代の大溝が見つかりました。規模は幅約7m、深さ約2mで、これまでの調査を含めた総延長は40m以上になります。一昨年調査では、溝内から須恵器や土師器、軒丸瓦などが出土しています。土師器の中には当時貴重な丹塗りのものがあることから、遺跡周辺に役所などがあった可能性があります。今年度の調査では、溝の壁面及び底部に当時の人々が溝を掘る際に使用したと考えられる工具の痕跡が見つかりました。

12月14日（土）・15日（日）には現地説明会を開催しました。両日とも天候に恵まれ、100名以上の方々にお越しいただきました。参加者の皆さんには、現地で縄文時代や奈良時代の調査状況、展示会場では縄文時代の石器などを間近にご覧いただきました。

（高田恭一郎・河野唯花・竹田千紘）



調査区全景（南東から）



縄文時代草創期の石鏃（左2点）と有溝砥石



奈良時代の大溝（南西から）



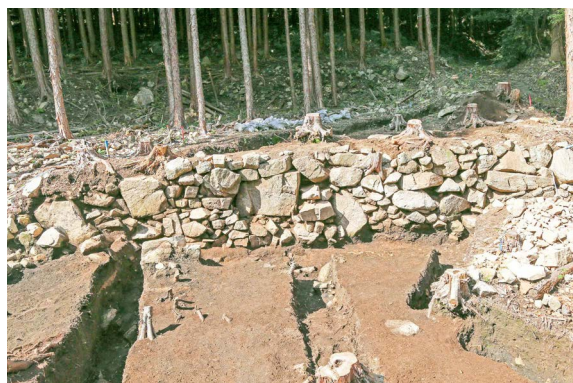
現地説明会の様子

しこうの 至孝農遺跡

とまたぐんかみのちょう
苫田郡鏡野町至孝農

近世の製鉄に関連する 遺構を調査

通常砂防事業（カナザコ川）に伴い、江戸時代の製鉄遺跡である至孝農遺跡の調査を令和6年7月から10月に行いました。調査区は、製鉄炉のあった建物（高殿^{たかどの}）やできた鉄を冷やした池（鉄池^{かねいけ}）の跡と思われる遺構の周辺に当たります。調査前から斜面に石垣を築いて作られた作業面がありましたが、それに加え鉄滓（鉄を作るときにできた廃棄物^{てっさい}）の層に埋もれていた石垣の跡を新たに6か所検出し、作業面の変遷^{へんせん}があったことが判明しました。（氏平昭則）



調査前から露出していた石垣（南東から）



鉄滓層の下^{した}の石垣跡（東から）

ふくだゆだ 福田湯田遺跡

津山市福田

古墳時代後期 水辺の祭祀^{さいし}の痕跡を発見

一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴い、令和6年6月から福田湯田遺跡の発掘調査を行っています。本遺跡は、吉井川の支流である皿川^{さら}の兩岸に広がる遺跡です。遺跡の東側の丘陵には、古墳時代後期（6～7世紀）に造られた古墳が多く所在しています。

今年度の調査では、これらの古墳が造られた頃の皿川の旧流路（水が流れた跡）を複数検出しました。いくつかの流路では、川岸に須恵器と土師器^{かめ}の甕のセットや、朱色に塗った小型の壺などが置かれた状況で確認できました。これらの土器は、川に流されて摩滅した様子や実際に使われた痕跡が見られないことから、実用的なものではなく、水辺で行われた何らかの祭祀に使われたものと推測されます。

遺跡の近くに立地する古墳群との関連も窺^{うかが}わせる、興味深い事例です。（渡邊 響）



川岸での土器出土状況

第 1 回 令和 6 年 8 月 24 日 (土)

調査報告「マキサヤ遺跡、神明遺跡ほかの調査成果」 松尾 佳子

この 10 年間で当センターが発掘調査を行った、縄文時代～古墳時代前期の遺跡の中で、選りすぐりの 3 遺跡を取り上げました。四国の特徴を持つ縄文土器が出土した里庄町・マキサヤ遺跡、調査中に銅鐸が見つかった総社市・神明遺跡、眺望の良い丘陵上に築かれた墓域である浅口市・城殿山遺跡。それぞれ立地も性格も異なる 3 遺跡について、調査当時のエピソードなども交えながら、その成果について報告しました。

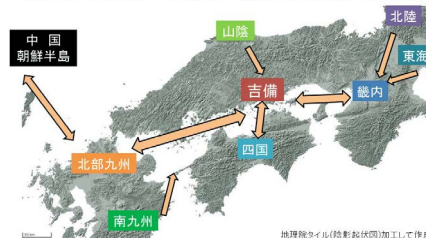


城殿山遺跡遠景（北上空から）

テーマ発表「弥生～古墳時代の吉備を探る」 石田 為成

吉備は、南に広がる瀬戸内海を利用した交流、広く展開した水田の生産力を基盤に発展しました。弥生時代後期には、吉備の王墓と目される倉敷市・楯築墳丘墓が築かれます。吉備の王は、当時の主要交通路であった瀬戸内海での交易活動を掌握し、各地の勢力と交流していたようです。また、吉備は土器製塩に始まり、特殊器台や吉備型甕など独自の技術で先進的な器物を製作し、特殊器台のまつりを創出しました。特殊器台のまつりは、初期ヤマト政権の王墓にも引き継がれ、注目されます。

弥生時代終末期～古墳時代初頭における吉備の交流



地理院カイル(陸影起伏図)加工して作成

発表資料の一部

第 2 回 令和 6 年 9 月 21 日 (土)

調査報告「こうもり塚古墳、佐良山古墳群の調査成果」 四田 寛人

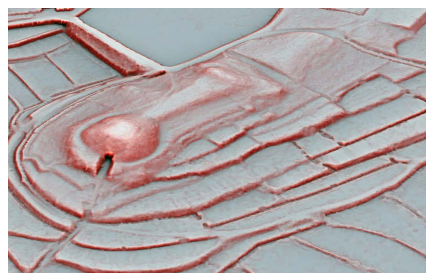
当センターは、近年 6～7 世紀頃の重要な古墳の調査を行いました。こうもり塚古墳は総社市にある墳長約 96m の前方後円墳で、県内最大の横穴式石室をもちます。墳丘の調査によって、正確な規模や構築方法、墳丘を巡る周縁部があること、墳丘の整形を一部簡略化したことがわかりました。津山市にある佐良山古墳群は約 200 基からなる群集墳で、うち 14 基を発掘しました。群集墳の一角を広く調査したことで、6 世紀中頃から 7 世紀の古墳築造の様子が明らかになりました。



佐良山古墳群

テーマ発表「古墳時代中・後期の吉備の交友関係を探る」 金田 善敬

近年、発掘が進み、その内容が明らかになってきた吉備の巨大古墳（岡山市・造山古墳、赤磐市・両宮山古墳、総社市・こうもり塚古墳）を紹介しました。そして、吉備の巨大古墳と当時の政治の中心地であった近畿地方の大王墓との比較を通じて、それぞれの古墳の特徴を明らかにしました。さらに、『古事記』や『日本書紀』にみられる吉備に関する記事を取り上げながら、吉備の豪族が生きた時代について考えました。



こうもり塚古墳（赤色立体図）

当センターでは、今年度開所40周年を迎えるに当たり、年度当初から様々な記念行事を行ってきました。その最後を飾るのが、シンポジウム「古代吉備の謎に迫る!ー吉備を育てた風土と交流ー」です。このイベントは、基調講演ののちシンポジウム形式の討論会を行うもので、令和6年11月23日(土)に、岡山県立美術館で開催しました。

弥生・古墳時代の吉備の特性を、立地・環境とそれを活かした生産や交流の観点から考えることを目的としたシンポジウムで、特に開所40周年までの10年間に当センターが発掘調査を行った遺跡にスポットを当てた内容です。

基調講演は、東海大学教授の北條芳隆先生^{ほうじょうよしとか}をお招きし「古墳の祭りと吉備ー景観史の観点から考えるー」と題してお話いただきました。ナスビ形曲柄鍬・土器製塩・広域水田開発などの経済的側面にかかわる先駆的な発明や、古墳の祭りなども吉備で誕生したという内容で、また造山古墳やこうもり塚古墳の方位と築造法などから、畿内との関係を概観していただきました。

シンポジウムでは、備讃瀬戸や畿内の様子を交えながら交流の大動脈であった瀬戸内海沿岸をめぐる諸関係を明らかにし、それらを総合して吉備のすがたを浮かび上がらせることを目的としており、パネラーとして北條先生と徳島文理大学教授の大久保徹也先生^{おおくぼてつや}、当センターから金田善敬・石田爲成を加え進めました。

第1部「吉備の弥生社会 弥生時代後期～古墳時代前期」では、弥生時代後期～終末期にかけて、次第に足守川流域の遺跡群が台頭してくる様子を、集落遺跡や楯築遺跡に代表される墳丘墓の在り方から考えました。

第2部「こうもり塚古墳とその時代」では、古墳時代後期を取り扱いました。北條先生と金田が、こうもり塚古墳は欽明陵^{きんめい}と言われる五条野丸山古墳^{ごじょうのまるやま}の3分の1の規模で、また墳丘の形状が似ており、被葬者は王権が信頼をよせる人物としたのに対し、大久保先生は、墳丘形状の類似には疑問を呈し、被葬者は地方拠点である屯倉^{みやけ}の管理者と考える意見が述べられました。

限られた時間の中で議論が尽くせない場面も多くありましたが、大久保先生が最後に述べられた「吉備は話題に出来る素材が多く存在する地域」という言葉が印象に残りました。今後に残された課題は決して少なくありませんが、良好な資料が揃う地域の特性を生かし、50周年に向けてさらに調査・研究を繋げていきたいと思います。

(小林利晴)



会場の様子



北條先生(基調講演)



大久保先生(討論)

令和6年10月26日(土)・27日(日)に県総合グラウンド内にある津島やよい広場を会場として「津島遺跡やよいまつり」を開催しました。天候にも恵まれ、2日間でのべ3,000人以上の方々に参加いただきました。

今回は恒例の火起こし、^{まがたま}勾玉づくり、弥生人に変身、稲の収穫・^{もみ}粃すりなどのやよい体験、復元住居や遺跡&スポーツミュージアムでの解説、クイズラリーに加え、開所40周年記念の特別体験メニューとして、「復活!土器パズル」や「勾玉をつもう!」も行いました。

このイベントでは、職員やミュージアムスタッフだけでなく、津島遺跡ボランティアの皆さん、県立岡山工業高等学校のボランティアの生徒さん、吉備の歴史・文化に親しむ会の方々にも参加いただき、一緒に盛り上げていただきました。(米田克彦)



当日の様子(左:火起こし体験、中央:弥生人に変身、右:土器パズル・勾玉をつもう!)

吉備路ウォーク

史跡備中国分尼寺跡、史跡こうもり塚古墳、
市史跡^{しゅくこやま}宿小山古墳(総社市)

令和6年12月7日(土)、冬日和の中、吉備路周辺の文化財を巡りその歴史について学ぶ、吉備路ウォークを開催しました。

備中国分尼寺跡、こうもり塚古墳では当センター職員、宿小山古墳では総社市職員の方が解説を行いました。参加者の皆さんはウォーキングを楽しみながらそれぞれの遺跡について学びました。「発掘調査の新しい成果が聞けてよかった」「今後も続けてほしい」などの感想をいただき、大変好評でした。(杉浦香菜子)



備中国分尼寺跡の解説の様子

吉備の史跡を巡る

市史跡^{ちやうすやまじょう}茶臼山城跡(赤磐市)

令和7年1月25日(土)に「吉備の史跡を巡る」を開催しました。このイベントは地域の史跡を巡り、その歴史に親しむものです。

今回は、赤磐市史跡の茶臼山城跡を訪ね、城の歴史や縄張りについて解説しました。参加者の皆さんは説明を聞きながら、堀切^{ほりきり}や^{たてぼり}縦堀などを見学しました。また、「戦国時代の山城の見方について楽しく学べた」との感想もあり、盛会となりました。(和田 剛)



茶臼山城跡の見学

令和 6 年 10 月 17 日（木）から 1 階展示室で、開所 40 周年記念企画展 2「発掘！吉備の弥生集落」を開催しています。

この企画展はセンターがこれまで発掘調査を行ってきた、岡山市百間川遺跡群や津島遺跡、倉敷市上東遺跡など、弥生時代の集落遺跡の調査成果を紹介するものです。

今回の企画展ではこれらの集落遺跡から見つかった出土品を展示し、弥生時代の人々の暮らしと祈りについて紹介しています。会期は 4 月 13 日（日）まで。この機会にセンターへ是非ご来館ください。（和田）



企画展 2 の様子

vol. 21

センター 収蔵品紹介

上東遺跡出土の
弥生土器・甕

土器の表面に黒いススの跡が見えますが、よく見ると火にかけた際に付いた、吹きこぼれの跡（白い点線の範囲）も残っています。また、甕の内部には炭化したお焦げが残っており、これらから、お米と水を入れ、火にかけ炊いていたことがわかるのです。

この「弥生土器・甕」は NHK「歴史探偵」でも紹介されたもので、現在開催中の企画展で展示中です。企画展と併せて、この土器も是非御覧ください。（和田）

吹きこぼれが伝える弥生時代の炊飯

今回は弥生時代の人々がどのようにお米を炊いていたかを伝える、「弥生土器・甕」について紹介します。

右の写真は倉敷市上東遺跡で見つかった弥生土器の甕で、弥生時代後期（今から約 1,800 年前）のも



吹きこぼれの跡



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3
TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142
WEB <https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/>

- ◎ 交通案内 JR 山陽本線庭瀬駅下車徒歩 40 分
JR 桃太郎線吉備津駅下車徒歩 25 分
- ◎ 業務時間 AM8:30 ~ PM5:15
- ◎ 休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始
- ◎ 展示室の開館 AM9:00 ~ PM5:00
土・日・祝日も開館しています。（臨時休館あり）

HP・SNSも随時更新中

Q 古代吉備文化財センター

